

第10回 北陸ブロック事務研究集会

「語ろう！
学校事務のこれからを」

**福井県
開催！**



薄田事務職員部長による情勢報告

11月18日（金）・19日（土）の両日、福井県において第10回日教組北陸ブロック事務研究集会が開催され、本県から67名の事務職員が参加しました。

18日（1日目）の開会式では、松田事務職員部長が挨拶を行い、歓迎の言葉が述べられました。全体会では、日教組事務職員部長の薄田綾子さんから「2017年度の国の教育予算」「チーム学校としての事務職員制度」「他県の事務長制」等について情勢報告がありました。その後、報告に対する質疑応答の時間がとられ、参加者から多くの質問や意見等の発言があり活発な意見交換の時間となりました。

夜の交流会では他県の参加者と情報交換が行われ和やかな食事会となりました。

19日（2日目）には、3つの分科会で各県の実践発表及び研究会が行われ、どの分科会も熱心な討論がなされました。

＜参加者の感想＞

○各県の情勢報告について

- ・各県の状況を聞くことで、自分たちの置かれている状況と照らし合わせ、様々な「気づき」がもたらえた。やはり近隣県のことが参考になる。

○講演会（中央情勢報告）について

- ・以前、薄田部長より話を聞く機会があったが、もっと詳しい話を聞きたいと思っていたが、今回は時間にゆとりがあり、十分話を聞くことができて良かった。
- ・普段学校現場にいるとなかなか知り得ない学校事務の現状や課題、今後の動向等の多くの情報を知ることができ本当に充実した時間であった。

○分科会について

- ・県内外の事務職員の現状や実践しておられることを聞くことで、自分のモチベーションを上げることができた。
- ・事務職員の長い歴史の中で「何ができたのか」「何をしようとして頑張っているのか」等について、大規模校から複式の極少数人数校、小中併設校、義務教育学校と、様々な労働環境の中で熱心にとりくまれている方々の話を聞くことで、多くのエネルギーをもらい、明日から自分なりにとりくんでみたいと思った。
- ・小中併設校の現状や小中一貫、義務教育学校への移行など、自分の聞きたかったことがタイムリーに聞けて良かった。学校事務の役割を考え、次に生かせるヒントをいただいた。
- ・福井県の教科書事務のとりくみは、目から鱗であった。業務の負担軽減について再度考えてみようと思った。